

エメックス国際セミナー

世界の閉鎖性海域 ～沿岸域管理の新たな展開～

EMECS International Seminar

Enclosed Coastal Seas in the World ～Future of Coastal Management Policy～

日時：平成29年2月28日(火) 午後1時30分～午後4時40分

会場：兵庫県公館 1階 大会議室

主催：公益財団法人国際エメックスセンター

後援：兵庫県、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議、ひょうご環境保全連絡会、公益財団法人
ひょうご環境創造協会、兵庫県環境保全管理者協会、アジア太平洋地球変動研究
ネットワーク(APN)、公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)

Time / Date : 13:30 – 16:40 , (Tuesday) February 28, 2017

Venue: Hyogo Prefecture Guest House

Organizer: International EMECS Center

Supporters: Hyogo Prefectural Government, Governors and Mayor's Conference on the Environmental Protection of the Seto Inland Sea, The Association for the Environmental Conservation of the Seto Inland Sea, The Research Institute for the Seto Inland Sea, Hyogo Environmental Conservation Association, Hyogo Environmental Advancement Association, Hyogo Prefecture Association for Corporate Environmental Conservation, The Asia-Pacific Network for Global Change Research, The Institute for Global Environmental Strategies



プログラム Program

13:30—13:40 主催者挨拶/ Opening Address

13:40—14:00 基調講演 / Keynote lecture

テーマ: 人間活動の沿岸環境への影響

講師: 鈴木 基之 (公財)国際エメックスセンター会長、東京大学名誉教授
Theme: Human impacts on coastal environment

Lecturer: Motoyuki Suzuki President, International EMECS Center
Professor Emeritus, University of Tokyo

14:00-14:30 第11回エメックス会議報告 / Report of EMECS 11-Sea Coasts XXVI Joint Conference

講師: ジョージ・ゴゴベリゼ ロシア国立水文気象大学 学部長
ダリア・リャブチュク A.P. カルピンスキーロシア地質調査研究所 部長

Lecturer: George Gogoberidze Director, Department of Scientific Research and
Innovations, Russian State Hydrometeorological University
Daria Ryabchuk Head, Department of Marine and Environmental Geology
A.P. Karpinsky Russian Geological Research Institute

14:30—16:20 講演: 世界の閉鎖性海域の動向 / Lectures: Enclosed Coastal Seas in the World

座長: 松田 治 (公財)国際エメックスセンター副理事長、広島大学名誉教授

Moderator: Osamu Matsuda Vice-Chair, Board of Directors, International EMECS Center
Professor Emeritus, Hiroshima University

14:30—15:00 <講演1 / Lecture 1 >

テーマ: ペルシャ湾の環境課題とイランの統合的沿岸域管理の実施への取り組み

講師: パルヴィン・ファルシッチ イラン環境庁海洋環境次官

Theme: Environmental challenges of the Persian Gulf and country's approach towards
implementation of the Integrated Coastal Zone Management tool

Lecturer: Parvin Farshchi Deputy Head of Marine Environment, Department of
Environment, Iran

15:00—15:30 <講演2 / Lecture 2 >

テーマ: 渤海における生態環境の変化とドライビングフォース

講師: 駱 永明 中国科学院烟台海岸带研究所常務副所長

Theme: Eco-Environmental Changes and Driving Forces in the Bohai Sea

Lecturer: Yongming Luo Executive Deputy Director, Yantai Institute of Coastal Zone
Research, Chinese Academy of Sciences

15:30—15:40 休憩 / Break

15:40—16:10 <講演3 / Lecture 3 >

テーマ: 日本の沿岸域の総合的管理

講師: 古川 恵太 笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究調査部部長

Theme: Integrated Coastal Management in Japan

Lecturer: Keita Furukawa Director, Ocean Research and Development Department
Ocean Policy Research Institute, Sasakawa Peace Foundation

16:10—16:20 座長総括 / Review of lectures by Moderator

16:20—16:35 環境研究プロジェクトの紹介 / Introduction of Special Project in Japan

テーマ: 持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発

講師: 柳 哲雄 (公財)国際エメックスセンター特別研究員、九州大学名誉教授

Theme: Development of Coastal Management Method to Realize the Sustainable
Coastal Sea

Lecturer: Tetsuo Yanagi Principal Researcher, International EMECS Center
Professor Emeritus, Kyushu University

16:35—16:40 閉会挨拶 / Closing Address

講演者略歴 Lecturer Profiles

鈴木 基之

(公財)国際エメックスセンター会長、東京大学名誉教授

Prof. Motoyuki Suzuki

1969～2001年東京大学生産技術研究所にて環境化学工学の研究室を主宰。95～98年同所所長、01年退職。東京大学名誉教授。98～03年まで国際連合大学副学長(環境・開発部門担当)、03～11年放送大学教授、08～14年東京工業大学監事。現在、(一社)日本UNEP協会代表理事など。研究領域は吸着工学、環境技術、持続可能な社会開発など。環境保全功労者表彰、国際水学会ジェンキンス賞、化学工学会学会賞、日本水環境学会学会賞、環境科学学会学会賞など受賞。05～13年、中央環境審議会会長を務める。



松田 治

(公財)国際エメックスセンター副理事長、広島大学名誉教授

Prof. Osamu Matsuda

1968年東京大学農学部水産学科を卒業後、71年より広島大学で瀬戸内海や閉鎖性海域の研究と教育に従事、03年より広島大学名誉教授。専門は水域物質循環論、沿岸環境管理や自然再生。北極海、南極海、熱帯域、南北太平洋などで幅広くフィールドワークを行っている。

農林水産省生物多様性戦略検討会委員や環境省の中央環境審議会瀬戸内海部会企画専門委員会委員長、海域の物質循環健全化計画(統括)検討委員長、閉鎖性海域水質管理手法調査検討委員長等を歴任後、現在も中央環境審議会水環境部会総量削減専門委員会委員など数多くの委員の他、NPO法人瀬戸内海研究会議顧問に就任している。15年より(公財)エメックスセンター副理事長。



ジョージ・ゴゴベリーゼ

ロシア国立水文気象大学 科学研究・イノベーション学部長

Prof. George Gogoberidze

1993年ロシア国立水文気象大学にて海洋学修士、96年博士号取得。02年サンクトペテルブルク大学にて経済学修士を取得。93年以降ロシア国立水文気象大学講師、助教授、主任科学研究員、副学長を経て、15年より現職。

主な研究分野は沿岸域資源利用と開発プランニング・生態安全・人為的負荷の包括的見地、沿岸域の海洋経済可能性とその評価指針、沿岸域開発戦略、沿岸・海洋空間プランニング、沿岸域における地籍図・法・行政規則、他。

主な参加プロジェクト:ロシアの沿岸海域・内海モニタリングのための情報システムテクノロジーの開発(2011-2012)、黒海沿岸域の地生態リスク管理のための理論とテクノロジー開発(2010-2011) 他多数



ダリア・リャブチュク

A.P. カルピンスキーロシア地質調査研究所 海洋・環境地質部長

Dr. Daria Ryabchuk

1990年レニングラード大学(現サンクトペテルブルク大学)卒業。89年以降、A.P.カルピンスキーロシア地質研究所研究員を経て、15年より現職。02年博士号取得。専門は堆積学、環境地質学、地生態学、沿岸域地質学。

多年に渡り19の国家プロジェクト(バルト海、東フィンランド湾、ラドガ湖、ネヴァ川等の地質測量や調査、沿岸域保全、地生態マッピング、海洋・環境地質学等)に参加し、うち8プロジェクトにはプロジェクトリーダーとして参加。

主な参加プロジェクト:バルト海・バレンツ海・白海の沿岸帯地質環境モニタリング(2012-2014) フィンランド湾形成計画と保全のためのツール(2012-2014) 等、他多数。



Dr. Parvin Farshchi

1995年海洋科学博士号取得。96年ムンバイ大学(インド)「Best Student and Sport Woman of the Year」受賞。01年インド生物科学学会「Young Scientist of the Year」受賞。09-12年国連プロジェクトサービス機関(UNOPS)のプロジェクトマネージャー、カスピ海関連プロジェクトをサポートする国連開発計画(UNDP)・地球環境ファシリティ(GEF)チーフテクニカルアドバイザー。また、シニアアドバイザーとして湾岸海洋環境保護機構(ROPME)、カスピ海環境プログラム(CEP)をコーディネートした。国連開発計画(UNDP)、国連環境計画(UNEP)、国際海事機関(IMO)、世界銀行、欧州連合一独立国家共同体技術支援(EU-TACIS)など、国連関連で多くの勤務経験を持つ。12年より現職。また、イスラム・アザド大学サイエンス・リサーチ部門で海洋科学、環境管理・行政について教鞭をとっている。



駱 永明

中国科学院煙台海岸帯研究所 常務副所長

Prof. Yongming Luo

Future Earth Coast(FEC)の科学運営委員会委員、FEC東アジアノードのディレクター。97年クイーンズ大学ベルファスト(英国)で博士号取得。98年から、中国・南京の中国科学院土壤科学研究所教授。08年~11年、中国科学院土壤環境・汚染浄化キーラボラトリーディレクター。13年YIC-CASディレクターに任命。主な研究分野は沿岸土壤環境と汚染浄化、地域の環境品質とリスク管理。400以上の(共同)科学論文と16冊の本を出版し、中国で27件の特許を取得。この10年間、中国科学技術省(MOST)、中国国立自然科学財団(NSFC)、中国科学院の資金提供による英国、ドイツ、オランダ、オーストラリア、日本との国際協力による5つのプロジェクトを含む、30以上の大規模な国家間の多分野研究プロジェクトを率いてきた。01年にNSFCにより「National Outstanding Young Scientist」を、MOST(02-08)のNational Key Basic Research Program(“973”プログラム)のチーフ・サイエンティストを授与。また、MOST(01-10)の資源・環境分野の国家ハイテク研究開発プログラム(“863”プログラム)の専門家グループメンバーでもあった。現在、“973”プログラムのコンサルタント専門家で、“863”主要プログラム“汚染土壤改良技術とデモンストレーション”(12-16)のチーフ・サイエンティスト。中国海洋学会副委員長、中国土壤科学協会理事、国際植物工学協会委員。学術誌 *International Journal of Phytoremediation* および *Frontiers of Environmental Science and Engineering*の編集委員。



古川 恵太

笹川平和財団海洋政策研究所 海洋研究調査部長

Dr. Keita Furukawa

1988年3月 早稲田大学大学院理工学研究科 修了
 1988年4月 運輸省(当時)入省、港湾技術研究所 海洋水工部 海水浄化研究室
 1994年6月-1996年3月 新技術事業団 派遣研究員(在:豪州海洋科学研究所)
 2001年4月 国土交通省 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部 海洋環境研究室長
 2004年4月 博士(工学)取得(早稲田大学)
 2011年9月 国土交通省 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部 沿岸海洋新技術研究官
 2013年4月 海洋政策研究財団(2015年より合併により 笹川平和財団海洋政策研究所)



柳 哲雄

(公財) 国際エメックスセンター特別研究員、九州大学名誉教授

Prof. Tetsuo Yanagi

1972年3月 京都大学理学部卒業
 1974年3月 京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了
 1974年4月 愛媛大学工学部海洋工学科助手
 以降、講師、助教授、教授を歴任
 1997年8月 九州大学応用力学研究所 教授
 2013年3月 同大学を定年退職後、特任教授
 2014年4月 同大学名誉教授、(公財)国際エメックスセンター特別研究員 現在に至る
 この間、瀬戸内海、東京湾、伊勢湾、東シナ海、南シナ海など沿岸海域における物質輸送に関与する物理・化学・生物過程の研究に従事する。また、2014年4月からは(公財)国際エメックスセンター特別研究員として、環境省が実施する「環境研究総合推進費」によるプロジェクト「S-13 持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」に研究代表者として取り組んでいる。

